

1 学習指導と評価の改善・充実

専門教育に関する家庭科においては、科学技術や産業の発展に主体的に対応できる人材の育成を目指し、衣食住、保育、家庭看護や介護などの各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得、生活産業の社会的意義や役割の理解、家庭の各分野に関する諸課題の解決などに関する学習が求められている。

そのため、実践的・体験的な学習の中に、望ましい勤労観・職業観の育成を図るための、社会人講師の講話や産業現場等の見学、就業体験などを積極的に取り入れ、各学科に関連する産業や職業を具体的に理解させ、生活産業に従事するスペシャリストの育成と社会の発展に寄与しようとする創造的な能力と実践的な態度を育てることが重要である。

また、評価に当たっては、各科目の目標に準拠した観点別評価の一層の充実を図ることや、単に知識や技能の量のみではなく、思考力・判断力・表現力や学ぶ意欲など、いわゆる「確かな学力」の状況について適切に把握し、評価することが必要となっている。さらに、評価の結果を受けてその後の指導を改善・充実させるといった学習指導と評価の一体化を進める取組が必要である。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

～ 指導と評価の一体化を進める取組～

(1) 評価計画表の作成

昨年度の本手引を参考に、評価計画表の作成を行う。

ア 作成上の留意点

- (7) 目標に準拠した評価を一層重視するために、ねらいを明確にし、学習活動における具体的な評価規準を作成する。
- (イ) 生徒の学習状況を適切に評価するため、観点別評価を基本とした評価方法の工夫や、評価の時期や学習過程における評価の検討を行う。
- (ウ) 生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況を把握するために、個人内評価を充実させる。
- (エ) 指導と評価の一体化を図り、指導方法の改善に伴う評価規準や評価方法の見直しを行う。
- (オ) 生徒による自己評価や生徒同士の相互評価を評価計画表に位置付け、指導と評価の改善を図る。
- (カ) 評価に関する情報の共有や交換により、評価を行う教員の判断を共通のものにしていくことや、評価に関する情報を生徒や保護者に対して適切に提供する。

イ 評価計画表の例

次の表は、原則履修科目の「生活産業基礎」について、単元(3)生活産業と職業、ウ 住生活関連分野、の評価計画表であり、学習指導要領の目標に準じて設定した評価規準を柱に、指導項目や指導内容に合わせ、学習活動における具体の評価規準や評価方法の例を示したものである。

(ア) 科目名「生活産業基礎」単元(3)生活産業と職業、の評価計画表(例)

科目名	生活産業基礎			
単元名	(3)生活産業と職業 ウ 住生活関連分野			
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> 食生活、衣生活、住生活、ヒューマンサービス関連分野の生活産業の種類や特徴を理解し、関連した職業を知る。 生活産業の市場調査、産業現場の見学、就業体験を行い、生活に関連する職業などへの関心を高め、発表等を通じて生活産業の理解を深める。 			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
内容のまとめりの「生活産業と職業」の評価規準	食生活、衣生活、住生活、ヒューマンサービスなどに関連する分野の生活産業の種類や特徴、関連する職業について関心を持ち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	食生活、衣生活、住生活、ヒューマンサービスなどに関する分野の生活産業と職業に関する学習の中から課題を見付け、解決を目指して思考を深めている。	調査活動、産業現場等の見学、就業体験などの学習活動を計画し、その成果を的確に表現、発表することができる。	食生活、衣生活、住生活、ヒューマンサービスなどに関する分野の生活産業の種類や特徴、意義と役割、産業と環境のかかわりを理解している。
「ウ 住生活関連分野」の評価規準の具体例	<ul style="list-style-type: none"> マンションの様式替えや、住宅のリフォームなどに関心を持っている。 インテリアプランナー、インテリアコーディネーターなどの住生活に関連する職業や資格について関心を持ち、調べようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 住生活関連産業の現場等の見学、就業体験、調査などの学習活動の中で、自分なりに課題を見付け、解決を目指して考え、工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 住生活産業の現場等の見学、就業体験、調査などについて、計画を立てて実践するとともに、学習活動のレポートをまとめたり、発表したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 住意識が変化し、住居に対する関心が高まっている実態について理解している。 インテリア産業の意義と役割、関連する職業に必要な知識や技術、資格などについて理解している。

中項目 ウ 「住生活関連分野」の目標
住生活関連分野における産業の種類や特徴、関連する職業について、産業現場の見学・調査などから理解させ、それらの活動の成果を発表させるなどして住生活関連産業への関心を高めさせる。

指導計画 (総授業時数 16時間)

- | | | |
|-----------------------|-----|--------------------------------------|
| (1) 住生活の変化と住生活産業のかかわり | 4時間 | インターネットを活用した調査(2時間)
調査結果のまとめ(2時間) |
| (2) 環境問題に取り組む建築家の講話 | 2時間 | |
| (3) 住宅展示場の見学 | 3時間 | |
| (4) コーポラティブハウスのプランニング | 5時間 | プランニング(3時間)
発表(2時間) |
| (5) 住生活関連産業の職業と資格 | 1時間 | |
| (6) 単元テスト | 1時間 | |

学習活動における評価規準分野	内容	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	住生活の変化と住生活産業のかかわり 4時間	住生活の変化と生活産業の関わりについて、関心をもって調査に取り組んでいる。	住生活の現状生活産業の関わりをもとに現代社会における住生活の課題について考察している。	キーワードに基づき情報の検索・収集を行うことができる。 収集した情報を適切に利用し、まとめることができる。	住生活関連産業とかかわる住生活の変化や現状について理解している。 住生活関連産業の意義や役割について理解している。
	ワークシート		(単元テスト)	ワークシート	(単元テスト)
	社会人講師(建築家)の講話 2時間	住生活関連産業に関する職業、環境問題に興味・関心を持って講話を聞いている。	(評価規準の設定なし)	講話から理解したことや、考察した内容をまとめることができる。	健康への関心、環境問題への関心が高まっている現状を理解している。
	講話プリント			講話プリント	講話プリント (単元テスト)
	住宅展示場の見学によるバリアフリー、ユニバーサルデザインの調査 3時間	住生活関連産業、バリアフリー、ユニバーサルデザインについて興味・関心を持ち意欲的に見学、調査に取り組んでいる。	住生活関連産業において、高齢社会に対応した住環境、住まいの安全などの重要性について思考を深めている。	住宅見学の計画を立て、実物例を探し確認し、見学した内容を項目にそってまとめることができる。	バリアフリー、ユニバーサルデザインについて理解している。
	ワークシート 観察(取組状況)		ワークシート	ワークシート (単元テスト)	プリント
コーポラティブハウス(コレクティブハウス)のプランニング 5時間	多様化した住宅、居住形態について関心を持ち、住み手の立場になって、意欲的にプランニングに取り組んでいる。	想定したモデル家族の構成、立地条件、コミュニティなどに配慮し、創意工夫をしている。 家族のライフスタイルや多様なニーズに対応したプランニングになったか考察している。	モデル家族の各戸(各室)の配置・つながり等を的確に表現した図面(配置図)を作成し、発表することができる。	コミュニティを重視したコーポラティブハウスの意義を理解している。 プランニングするための基礎的知識を理解している。	
ワークシート 観察(取組状況) (単元テスト)		ワークシート 観察(取組状況) (単元テスト)	ワークシート 観察(発表)	ワークシート (単元テスト)	
住生活産業の職業と資格 1時間	住生活関連産業における様々な資格や職業について興味・関心を持ち、意欲的に学習活動に取り組んでいる。	(評価規準の設定なし)	(評価規準の設定なし)	住生活関連産業の職業と資格について理解している。	
ワークシート				ワークシート (単元テスト)	
単元テスト 1時間	単元テスト	単元テスト	単元テスト	単元テスト	

注： 単元の評価の総括の資料とする。 単元の評価の総括の資料としない。

(1) 評価方法の具体例

昨年度の本手引においては、「生活産業基礎」の中項目「衣生活関連分野」の評価計画表の例を記載し、【関心・意欲・態度】を評価するワークシート、【思考・判断】を評価する講義プリント、【技能・表現】を評価するプリントを示し、それぞれの評価方法の具体例について、評価規準及び評価の観点を示した。

今年度は、4観点すべてを含むペーパーテスト(単元テストの事例)を示し、その評価方法について述べる。

ペーパーテストによる評価
単元テスト問題の具体例

(例) 生活産業基礎 単元テスト「住生活関連分野」	
1年組 番氏名 _____	
1.	持ち家形態の一戸建て、持ち家形態のマンション、賃貸形態のマンション、そのうち一番快適と考えられるものをあげ、その理由も答えなさい。 【関心・意欲・態度】
2.	次の問いに答えなさい。 【思考・判断】
(1)	<p>ア. 部屋の面積が大きい。イ. 床材である畳は温かい。防音性にすぐれている。</p> <p>ウ. 高齢者の積りが適している。エ. 活動的・作業性が高い。シンプルである。</p> <p>オ. 部屋の積りが適している。エ. 活動的・作業性が高い。シンプルである。</p> <p>キ. 部屋の積りが適している。エ. 活動的・作業性が高い。シンプルである。</p>
(2)	<p>A群に示した「ライフスタイル」にもっとも関係の深い「住宅のコンセプト例」をB群より選</p> <p>A群 アイ 近日常都</p> <p>B群 アイ 近日常都</p> <p>ライフスタイル: 視覚的・精神的な刺激を受け、心地よい生活を送りたい。</p> <p>コンセプト例: 派手な外観、開放的な空間、最新の設備、自然環境との調和、家族の絆を大切にする。</p>
(3)	次の住様式について簡潔に説明し、それぞれの長所、短所を答えなさい。
3.	現代の生活・生活課題についての問いに答えなさい。 【技能・表現】
(1)	ユニバーサルデザインの具体的な例をあげ、説明しなさい。
(2)	ユニバーサルデザインとバリアフリーの考え方の違いを説明しなさい。
(3)	ユニバーサルデザインとバリアフリーの考え方をそれぞれ説明し、これらへの要求が高いと考えられる家族形態(世代)を答えなさい。
4.	次の住宅と健康に関する文章を読み、問いに答えなさい。 【知識・理解】
(1)	日本の住宅は、本来は高温多湿の夏の気候条件を考慮して()の良いつくりが当たり前であった。近年は、高気密・高断熱の住宅が増加してきた。この住宅はメリットもある一方、デメリットとして()が挙げられる。特に()として使用される()やキシロソールといった化学物質による体質不良は()と呼ばれ、重症になると()症を起こすなど社会問題となっている。当てはまる語句を答えなさい。
(2)	_____線のメリットを答えなさい。
5.	次の住生活の変化に関する問いに答えなさい。 【知識・理解】
(1)	現在の日本の住宅は、住宅メーカやディベロッパーによって供給される比率が、年々低くなっている。住宅展示場に並ぶ商品住宅は、簡便であり、个性的である。そこで生活する人の家族の条件や生活スタイルによって異なっている。家庭内事故において、最も被害者となりやすいのは乳幼児で、年齢が上がるに従い、その割合は減少している。構造について説明したものである。該当する語句を答えなさい。
(2)	次断面図が2イチの構造材を使い組み立てるだけで建てられる住宅。梁を組み合わせることで建物を支える形を基本に筋交いを斜め材で補強した建て方。
6.	次の文は住生活関連産業にかかわる職業を説明したものである。それぞれの職業の名称を答えなさい。 【知識・理解】
(1)	高齢者や障害者に対する住宅や家具の設計や施工を行う専門職。
(2)	消費者の要望に合わせて自ら指導や助言を行う専門職。
(3)	高消費性の補修やメンテナンスを行う専門職。
(4)	提案する専門職。
(5)	提案する仕事。
(6)	法規制に対して指導や助言をする仕事。
(7)	業務とする仕事。
(8)	インテリア設計を行う専門職。

単元テストによる評価方法

問題	具体的評価基準及び評価の観点	おおむね満足できると判断できる状況（B）	十分満足できると判断できる状況（A）	努力を要すると判断できる状況（C）
1	多様化した住宅、居住形態について関心をもち、住み手の立場になって、記述している。 【 関心・意欲・態度 】	選択したものの理由が的確に述べられている。 <キーワード> 居住環境・条件に関わる語句 ・アクセス、日当たり、眺望、自然環境、商業施設等、経費（ローン、家賃、維持費）、構造などのうち3条件解答。	選択肢それぞれの特徴を把握しながら、それらを比較検討し、選択したものの理由が的確に述べられている。 <キーワード> 居住環境・条件に関わる語句のうち4条件以上解答で、比較検討項目がある。	選択したものの理由が的確に述べられていない。または不十分である。
2	(1) 住生活の現状、生活関連産業の関わりをもとに現代社会における住生活の課題について考察している。 【 思考・判断 】	<正解> イ、オ、カ、キ 起居様式についてほぼ正しい理解・判断がなされている。 (6問中3～4問正解)	ア、ウ、エ、ク 正しい理解・判断がなされている。 (6問中5～6問正解)	理解・判断が十分にされていない。 (6問中正解2問以下)
	(2)	<正解> ア、 ライフスタイルと住宅コンセプトの関わりがほぼ判断できる。 (4問中3問正解)	イ、 ライフスタイルから住宅コンセプトを的確に判断できる。 (4問中全問正解)	ライフスタイルから住宅コンセプトを十分に予想できない。 (4問中正解2問以下)
	(3)	LDKの機能・つながりを考え、ほぼ的確に説明している。 (2問中1問正解)	的確に型の説明をした上で、それぞれの長所短所もよく考え、説明されている。 (2問中全問正解)	LDKの機能・様式について、正しく理解されていない。または、機能について深く思考されていない。
3	(1) バリアフリー、ユニバーサルデザイン及びコーポラティブハウスなど現代の生活課題・求められる住要求について正しく理解し、実例をあげ、的確に説明できている。 【 技能・表現 】	ほぼ的確な具体例があげられ、ユニバーサルデザインの説明も概ね満足できると判断される。	的確な具体例があげられ、説明も十分満足できるものと判断される。	具体例があげられず、または妥当ではなく、説明も不十分である。
	(2)	バリアフリーデザインまたはユニバーサルデザインが概ね説明されている。	バリアフリーデザインと一歩進んだユニバーサルデザインとの相違点が明確に説明されている。	バリアフリーデザイン、ユニバーサルデザインとも説明されていない。
	(3)	コーポラティブハウス、コレクティブハウスの説明がそれぞれ概ね説明されている。	双方の説明がそれぞれの確に説明され、有効とされる家族形態（高齢者、単身者、子育て核家族）も書かれている。	いずれか一方またはいずれも説明されず、有効とされる家族形態もあげられていない。
4	(1) 健康への関心、環境問題への関心が高まっている現状を理解している。 【 知識・理解 】	<正解> 風通し（通気性） ホルムアルデヒド 住まいの安全・健康性についてほぼ理解している。 (6問中3～4問正解)	断熱 シックハウス症候群 住まいの安全・健康性について十分に理解している。 (6問中5問以上正解)	壁紙 化学物質過敏 住まいの安全・健康性について理解していない。 (6問中正解2問以下)
	(2)	省エネルギー効果がほぼ記述されている。 <キーワード> 冷暖房、省エネルギー、遮音の3語のうち2語使用の場合。	省エネルギーのほか、遮音等についても記述されている。 <キーワード> 3語のうち3語使用の場合。	高気密・高断熱のメリットを答えることができない。
5	(1) 住生活関連産業とかかわる住生活の変化や現状、及び住生活関連産業の意義や役割について理解している。 【 知識・理解 】	<正解> × × × × 社会の変化に影響を受けた住生活の変化についてほぼ理解している。 (5問中3問正解)	社会の変化に影響を受けた住生活の変化について十分に理解している。 (5問中4～5問正解)	住生活の変化を理解していない。 (5問中正解2問以下)
	(2)	<正解> ツーバイフォー工法 基本的な住宅の工法をほぼ理解している。 (3問中2問正解)	プレハブ住宅 基本的な住宅の工法を正しく理解している。 (3問中全問正解)	在来木造軸組工法 基本的な住宅の工法を理解していない。 (3問中正解1問以下)
6	住生活関連産業の意義や役割について理解している。 【 知識・理解 】	<正解> 福祉住環境コーディネーター キッチンスペシャリスト マンション管理士 住生活関連産業の職業をほぼ理解している。 (6問中3～4問正解)	インテリアコーディネーター DIYアドバイザー インテリアプランナー 住生活関連産業の職業を正確に理解している。 (6問中4～5問正解)	住生活関連産業の職業を理解していない。 (6問中正解2問以下)

単元テストで予想される解答例と評価（例）

問題	おおむね満足できると判断できる状況 (B)	十分満足できると判断できる状況 (A)	努力を要すると判断できる状況 (C)	【手当て等】
1	持ち家形態の一戸建て <理由> なんとって一戸建ては「上下左右」の家の傾かしがでない。 比較的郊外で適度な自然環境、公園や教育機関など充実している。 ローンを払っても土地も建物も自分のものになる。	賃貸形態のマンション <理由> 常に自分の気に入った新しい環境に移れる気軽さがある。交通アクセス、マンションの付加価値を追求できる。 持ち家だと古くなったら自分で修繕しなくてはならない。 経済的にもローンの金利や所有することで発生する税金もかからないので一番得である。	持ち家形態のマンション <理由> 何となく住みたいから。 自分のものになるし。	・新聞の折り込みチラシや住宅情報の冊子などを活用し、多様化した住宅や居住形態に関心をもたせ、自分の生活と関連付けて考えるよう支援する。
2	(1) <正解> イ、オ、カ、キ 6問中3～4問正解	ア、ウ、エ、ク 6問中5～6問正解	6問中正解2問以下	・学習した内容をワークシートの記述などから確認させ、質問をしながら考えが深まるよう個別指導を行う。 ・類似問題に再度挑戦させ、考える場面を増やしながら、思考の深まりを促す。
	(2) <正解> ア 4問中3問正解	イ 4問中全問正解	4問中正解2問以下	
	(3) 台所と食堂が一緒になって居間が独立している。 長所：食べたらずく片づけられる。 短所：暖房がムダ。 食堂と居間が一緒。台所が独立している。 長所：食べながらテレビが見れる。 短所：主婦が孤独。	食事室と台所が一体化し、居間が独立している様式。 長所：気軽にキッチンへ立ち入ることができ手伝える。団らん重視。 短所：においや音が食事室にも広がる。 台所を食事室や居間とは独立している様式。 長所：料理に没頭できる。散らかしたままでも食事の時には気にならない。キッチンだけのカラーコーディネートも可能。 短所：調理をする人が孤立。	ダイニングキッチンのこと 長所：使いやすい。 短所：衛生的。 システムキッチンの一腫 長所：便利。 短所：お金がかかる。	
3	(1) (例) ・スロープ付玄関 ・ホームエレベーター ・手すり など すべての人にとって使いやすい環境を整えるデザイン。	(例) ・座ったまま使える流し ・段差のない玄関、敷居、室内 ・手すりや腰掛けの設置 ・水回り、廊下、階段等の十分な広さ など 高齢者や障害者だけでなくすべての人にとって使いやすい住宅や環境を整える意味合いをもったデザイン。	(例) ・薄型テレビ ・高速エレベーターなど 世界水準のデザイン。	・語句についての理解を深めた上で、的確な表現ができるよう、添削指導等を行う。 学習活動における具体的評価規準に合わせ問題を作成するが、そのねらいにより、どの観点で出題するかは出題者の意図により異なる。この問題の場合、語句の理解を確認することをねらいとするならば【知識・理解】の観点での評価問題ともなりうる。
	(2) バリアフリーデザインは、あらゆる場面で高齢者、障害者の不都合(バリア)を取り除こうとするデザインで、ユニバーサルデザインは、すべての人にとって使いやすく、住宅や環境を整えるデザイン。	バリアフリーデザインは高齢者または障害のある人が、社会生活をしていく上でとももった障壁(バリア)を取り除いたデザインで、それに対しユニバーサルデザインは、最初から取り除かれて(特別な調整をせず、改善または特殊化した設計などで、最大限可能な限り、すべての人々に利用しやすい環境や製品のデザイン。	バリアフリーデザインは高齢者のためのデザインで、ユニバーサルデザインは障害者のためのデザイン。	
	(3) 土地を共同で買い、住人みんなが協力して建物の設計を計画していく集合住宅。 個室を基本としながらもリビングや食堂という住まいの一部を入居者が共有したもの。 高齢者。	土地の購入段階から協同組合方式で居住予定者がかわり建物の設計や間取りまで専門家の協力を得ながら共同して取り組む集合住宅。 独立した専用住戸の他に、共同の台所、食堂などの共用施設がついた生活協同型住居。 コミュニケーションをより重視するので高齢者、単身者の他に子育て核家族にも有効。	公営住宅のこと。 滞在型ホテルのこと。 高齢者、単身者などの人数の少ない人。	
4	(1) <正解> 風通し(通気性) ホルムアルデヒド 6問中3～4問正解	断熱 シックハウス症候群 6問中5問以上正解	壁紙 化学物質過敏 6問中正解2問以下	・健康への関心、環境問題への関心が高まっている現状を新聞の切り抜きなどをを用い、確認させ、再度同様の問題に取り組ませる。
	(2) ・熱を逃さず省エネルギー効果が高い。	・エアコン使用の際の効率上げる、または暖房で暖めた空気を逃さない、などの省エネルギー効果が高い。 ・騒音を低減する効果がある。	・地震に強い。	
5	(1) <正解> × × × 5問中3問正解	× × × 5問中4～5問正解	× 5問中正解2問以下	・何が間違っていたのかを生徒自身に確認させ、正答とのずれがある場合、解説して補う。
	(2) <正解> ツーパフォー工法 3問中2問正解	プレハブ住宅 3問中全問正解	在来木造軸組工法 3問中正解1問以下	
6	<正解> 福祉住環境コーディネーター キッチンスペシャリスト マンション管理士 6問中3～4問正解	インテリアコーディネーター DIYアドバイザー インテリアプランナー 6問中4～5問正解	6問中正解2問以下	・ワークシートで学習した住生活関連産業や職業について、生徒の進路と関連付けながら個別に説明する。

単元テストにおける生徒の評価例

先に挙げた単元テストによる評価方法に従い、各問題の設問ごとに評価を行い、単元テスト全体における評価をまとめたのが次の表である。この生徒の場合、【関心・意欲・態度】【思考・判断】【知識・理解】は評価（A）であるが、【技能・表現】は評価（B）である。この結果を踏まえ、個々の生徒の伸びやよさについての個人内評価を含むコメントを評価結果と合わせて記載し、生徒の意欲の向上につながるよう工夫することも大切である。特に評価（C）の生徒への手だてについては、事前に評価計画の中に盛り込み、適切な時期に確実に行われるよう配慮することが重要である。

単元テストの評価結果				1年組 番 氏名	
問題	観 点	各評価	評価	教師からのコメント	
1	関心・意欲・態度	A	A	A	よく頑張りましたね。日頃、積極的に授業を受け、真剣に取り組んだ努力の成果が現れているようです。さらなるレベルアップのために、学習をする際は一つの事柄に対していろいろな方向から考え、順序立てて文章にまとめるよう心がけるとよいでしょう！
2	思考・判断	A A B	A		
3	技能・表現	A B B	B		
4	知識・理解	A B	A		
5	知識・理解	A A			
6	知識・理解	A			

(3) 観点別評価の総括

ア 総括についての考え方（昨年度の本手引 P 79、P 80 を参照のこと。）

イ 単元ごとの観点別評価およびその総括について

単元の単位時間における学習活動における具体的評価規準に照らして、毎授業時間の観察や、ワークシートの記入状況、単元テストなどにより、評価（A）（B）（C）の観点別の評価を行い、単元ごとの評価を総括する。今年度は意図的に4つの観点を含む単元テストを作成し、目標に準じた観点別学習状況の把握を行ったため、本事例「生活産業基礎」の単元「生活産業と職業～住生活関連分野～」における観点別学習状況の評価の重み付けに、単元テストを位置付け、以下の表の通りとした。（昨年度の本手引 P 118 を参照のこと。）

<評価の重み付け例> 観点別学習状況の評価の重み付けを割合として表した例							
観点	1 住生活の変化と住生活産業のかかわり (4時間)	2 社会人講師の講話 (2時間)	3 住宅展示場の見学による調査 (3時間)	4 コーポラティブハウスのプランニング (5時間)	5 住生活産業の職業と資格 (1時間)	単元テストの割合の合計 (%)	合計 (%)
関心・意欲・態度	20	10	20	40 (30)	10	30	100
思考・判断	30 (30)		20	50 (30)		60	100
技能・表現	10	10	40 (30)	40		30	100
知識・理解	20 (20)	30 (20)		30 (10)	20 (10)	60	100

()内は各観点における単元テストの割合 %

ウ 学期および学年の各科目の観点別学習状況の評価について

単元全体から、学期末、学年末の総括をして評定を出すという一連の流れ（進め方）については、昨年度の本手引き P 80、P 118 を参考にすること。